

# サテライトにおける地域住民への情報発信 2011 年東日本大震災からの復興支援活動

著者	佐々木 良子, 熊谷 浩二
著者別名	SASAKI Yoshiko, KUMAGAI Koji
雑誌名	八戸工業大学紀要
巻	35
ページ	81-90
発行年	2016-03-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1078/00003561/">http://id.nii.ac.jp/1078/00003561/</a>



# —— サテライトにおける地域住民への情報発信 —— 2011年東日本大震災からの復興支援活動 ——

佐々木 良子<sup>†</sup>・熊谷 浩二<sup>††</sup>

## The Results and the Issue of Information Transmission at Satellite Information Booth — Reconstruction Support for the Great East Japan Earthquake —

Yoshiko SASAKI<sup>†</sup> and Koji KUMAGAI<sup>††</sup>

### ABSTRACT

Hachinohe Institute of Technology established H.I.T. Satellite Information Booth in the central area of Hachinohe City to promote the reconstruction support for the disaster area in March, 2012. This report about contrivance of dissemination of information and regional cooperation activities at H.I.T. Satellite Information Booth is a record to continue and improve the exchange or cooperation with a region. We have been offering information about disaster prevention and the local revival, the number of visitors is 9,363 as of the end of December, 2015.

**Key Words:** satellite information booth, disaster prevention education, regional cooperation, information transmission

**キーワード:** サテライト, 防災教育, 地域連携, 情報発信

### 1. はじめに

八戸工業大学は、2011年東日本大震災からの復興支援活動の拠点の一つとして、2012年3月、八戸市中心市街地に「八戸工業大学防災技術社会システム研究センターサテライト」（以下「サテライト」と略記）を設置している。なお、2011年3月に発生した東日本大震災からの地域復旧・復興のため、全学横断の八戸工業大学防

災技術社会システム研究センターが同年4月に設立された。その後、文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」の補助を受けている。これまで、サテライトの地域連携活動事例<sup>1)</sup>、地域住民の声に応えた活動事例<sup>2)</sup>を報告している。

本報では、サテライトの復興支援活動における情報発信の状況を報告する。

### 2. サテライト利用状況

サテライト利用者は2011年度25名、2012年度2,516名、2013年度2,297名、2014年度2,717名、2015年度(12月末現在)1,808名で、合計9,363名である。多くの地域住民の方にご来場いただいた

平成28年1月8日受付

<sup>†</sup> 防災技術社会システム研究センターサテライト  
スタッフ

<sup>††</sup> 社会連携学術推進室長

た。なお、本学の教職員約150名の来場はこの中の10%程度を見込んでいたが、約8%であった。

来場者の年代別割合を図2.1に示している。年代的には、万遍なく来場頂いている。このサテライトはファッションビル内に設置されており、ビル利用の方以外の方にも、色々発信している情報によって足を運んで頂いていると思われる。

HIT復興支援講座(4章参照)年代別参加者の割合を図2.2に示すが、高校生以下の参加が少ない。その理由として、講座の開催を休日(土・日曜)の午後に設定していたことや、学校での防災教育を受けていること等が挙げられる。なお、小中高校生向けは、後述する出張サテライトが主体となっており、「楽しみながら防災知識を得る」活動になっていた。今後は小中高校生への防災・復興活動をさらに積極的に行う必要があると考えている。

利用者の来場目的を図2.3に示している。各年度とも展示・資料の閲覧と配付資料の受領が多くなっている。展示・資料や配付資料の内容は別報<sup>2)</sup>に詳しいが、主なものを以下に列挙する。

(1)展示・資料

- ・ 八戸工業大学防災技術社会システム研究センター研究グループ研究活動パネル
- ・ 食品放射能スクリーニングシステム
- ・ GM サーベイメータ
- ・ NaI (TI) シンチレーションサーベイメータ
- ・ 津波記録写真
- ・ モバイルソーラーサプライ装置
- ・ 八戸市防災マップ
- ・ 非常時持ち出し袋 他

(2)配付資料

- ・ HIT復興支援講座案内
- ・ 東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会報告書(DVD)<sup>3)</sup>
- ・ 「市民と一緒に考える国際防災フォーラム」報告書
- ・ 八戸工業大学防災技術社会システム研究センター中間報告書
- ・ 放射線解説パンフレット
- ・ ドクターカーV3ペーパークラフト型紙

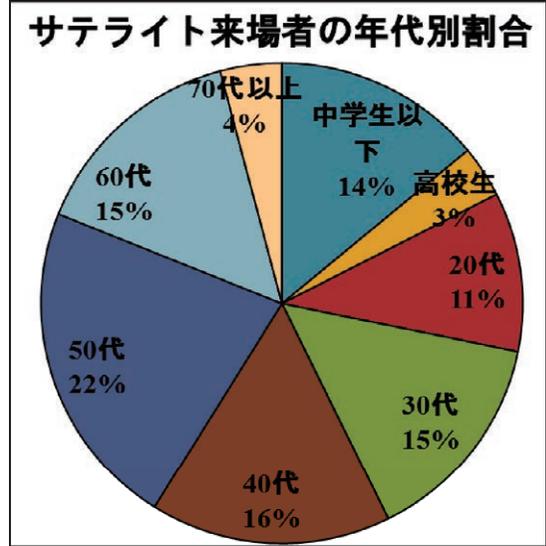


図 2.1 サテライト来場者の年代別割合

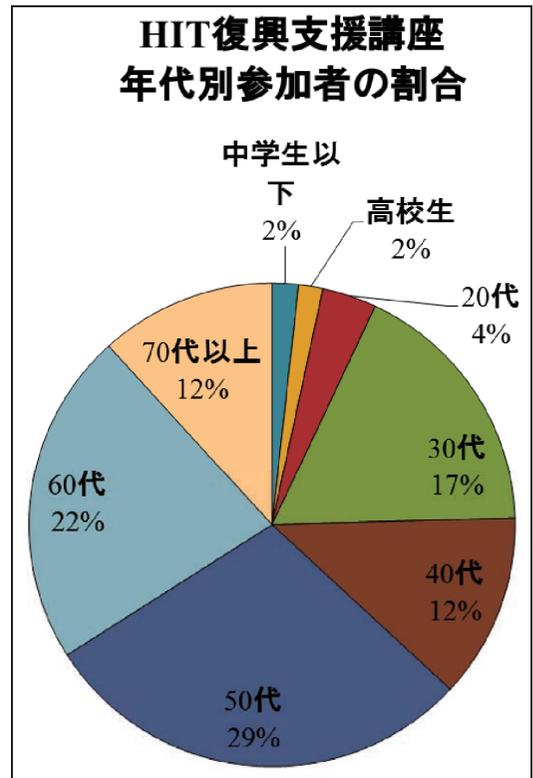


図 2.2 HIT復興支援講座年代別参加者の割合

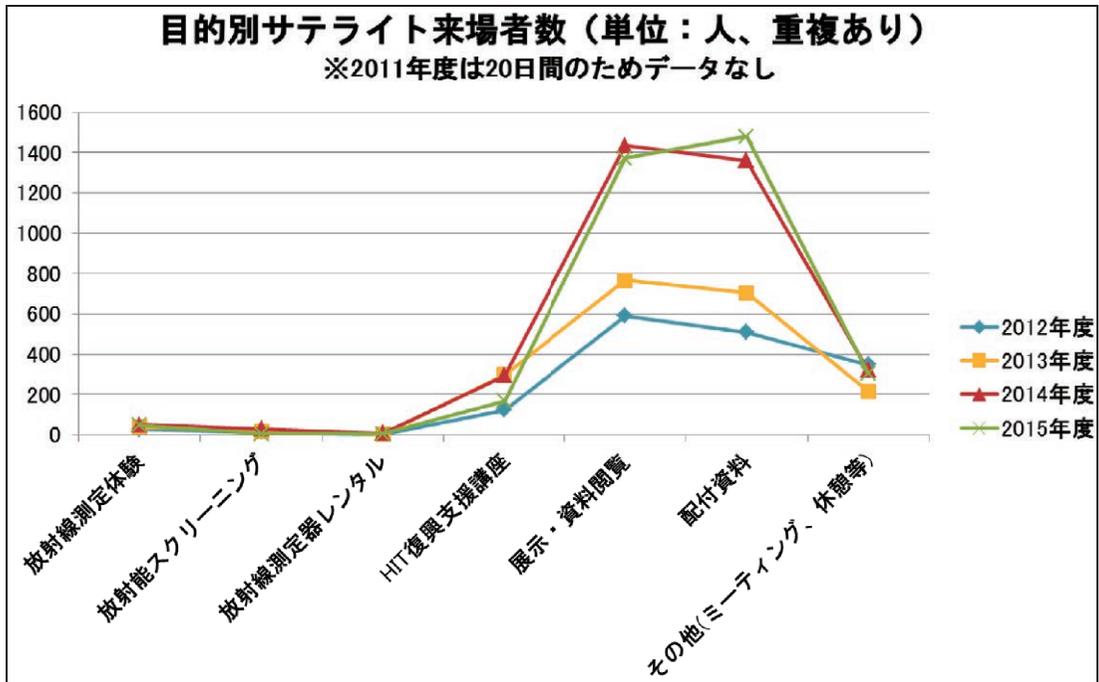


図 2.3 目的別来場者数

- ・学校案内
- ・八戸工業大学図書館利用案内 他

なお、展示の見学や配付資料の受領に比べ、放射線関連サービスの利用は少ないものの、市民への情報提供として重要な役割を担っていると感じており、次章にその概要を述べる。

### 3. 放射能関連サービス利用状況

スクリーニング依頼者は、個人のほか、公的機関や県内の NPO 法人等であった。測定依頼で最も多かったのはコメ類をはじめとする食品で、次いで家庭菜園などの土、水が多かった。

利用者からは、「東北産の野菜というだけで不安がられるが、これで安心して食べてもらえる」、「放射線汚染の子どもへの影響が心配なので、測定することで安全が確認できる」、「他の施設に測定を依頼すると高額なので、ここで無料で測定できるのはありがたい」などの

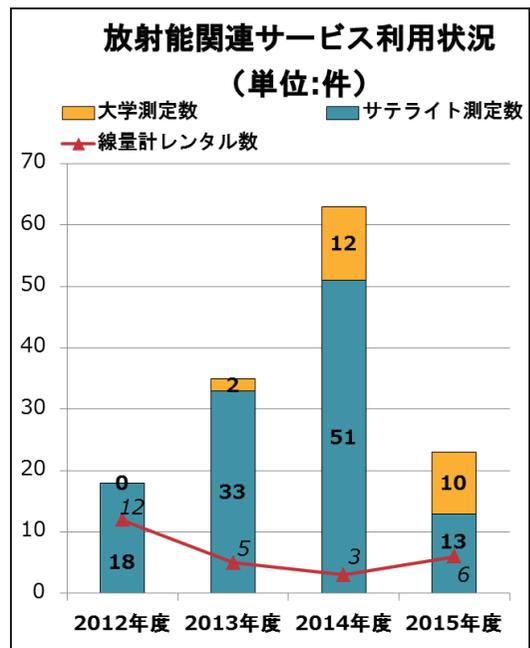


図 3 放射能関連サービス利用状況

声を頂いている。また、「大学に直接依頼するのは気がひけるが、ここなら利用しやすい」との意見も聞かれ、サテライトでのスクリーニング実施は、サービスを気軽に利用して頂く重要なきっかけづくりに役立っているようである。

図3に、サテライトでのスクリーニング依頼件数、大学での測定依頼件数及び家庭用放射線量測定器のレンタル件数を示している。2012年度から3年間は、このサービスの情報が次第に広がっていること、2015年度は震災4年目を迎え、この分野が落ち着いてきたことを示していると考えている。

#### 4. HIT 復興支援講座

サテライトでは週末に本学教職員による市民向けの無料講演会を開催している。

第1回開催は2012年4月で、2016年2月13日までの4年間に163講座を開催している。復興に関わる知識の発信が十分行われたと考えている。図4.1に開催時の様子を示す。表4に2015年度の開催講座一覧を示している。講座テーマの構成は2013年度末に実施した希望テーマアンケート（全37件）を基に選定している。講座の内容の推移を図4.2に示す。図4.3に示すように、講座参加者アンケート（全418件）によると、市民の方々の求める創造的復興も時間とともに変化し



図 4.1 HIT 復興支援講座の様子（「おのおのが主役になる“防災とリスクマネジメント”」2015年11月28日）

ており、それに対応する内容を提供している。

講座参加者アンケートの例を以下に紹介する。

・「京都議定書と私たちの生活」気候変動など災害の起因となっている話題の提供をこれからもお願いしたい。

・「ホタテ貝殻を利用した環境修復」大学が地元の問題について取り組んでいることを頼もし

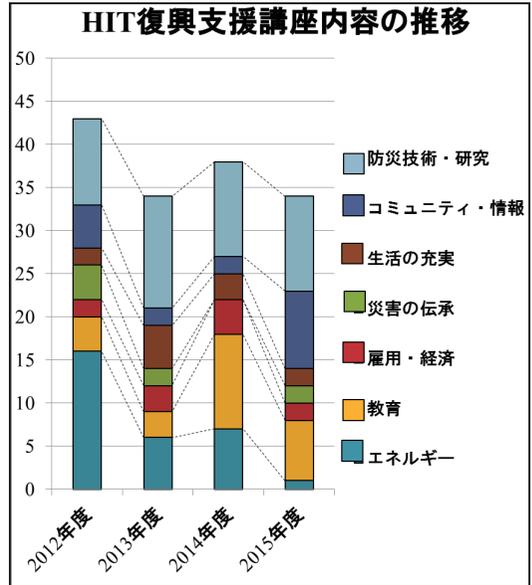


図 4.2 HIT 復興支援講座内容の推移

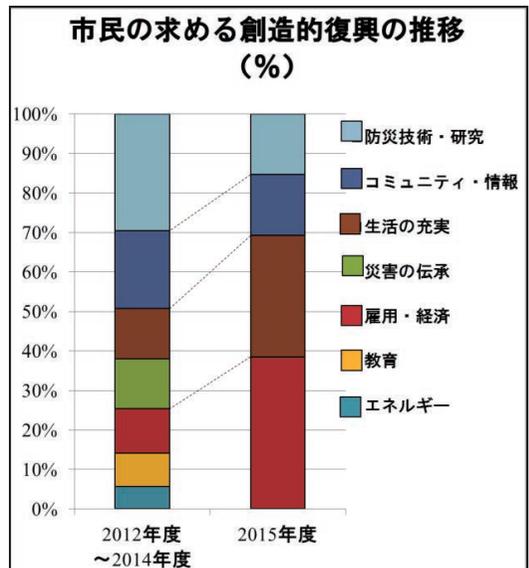


図 4.3 市民の求める創造的復興の推移

表 4 2015 年度 HIT 復興支援講座開催テーマ一覧

2015年 5月10日	未利用エネルギーの有効利用
5月16日	魅力的なクルマのデザインとは?
5月17日	宇宙で火はどう燃える?
5月23日	ロボット技術とその応用～アリ搭乗型ロボットから橋梁検査ロボットまで
5月24日	模型燃料電池車で遊ぼう (ミニ実験)
5月30日	製品企画, 設計のヒント
6月6日	惑星探査: ロボットとローバーの世界
6月7日	モノのインターネット IoTって何?
6月13日	赤や緑じゃダメなんです! なぜ青色 LEDはノーベル賞なの?
6月14日	お城と災害～どうしてそこにお城があるの?
6月21日	Kinectによる 3次元マップの生成技術
6月27日	スマートフォンで家電を制御?
7月5日	ビッグデータが世界を変える
7月11日	自動草刈り機を見てみよう!
7月12日	ハイブリッド手法による最適化問題の解法
7月18日	グリーン ICT～情報通信技術で環境を考える
7月19日	情報を見える形にする技術
7月25日	ディスプレイのはなし
9月5日	日本経済を考える
9月6日	食の安全・安心
9月12日	地球環境のためにバイオと化学は 何ができる!?
9月13日	乳酸菌の科学 ～プロバイオティック乳酸菌の話
10月3日	微生物を用いた水系からの金属の除去・回収
10月4日	バイオセラミックスを用いた環境浄化
10月18日	マイクロバブルによる環境浄化
10月24日	コケの森～奥入瀬溪流
11月1日	橋のはなし
11月8日	水の流れと微積分と超複素数
11月22日	東日本大震災における文化財被害と修復活動
11月28日	おのおのが主役になる 「防災とリスクマネジメント」
11月29日	騒音トラブルにどう対処すべきか
12月6日	スピリチュアリティの心理学
12月12日	人形浄瑠璃文楽の楽しみ方～世話物を中心に
12月13日	サイン環境のユニバーサルデザイン
12月19日	健康にはスポーツが一番!
12月20日	デザインとモノの話
2016年 1月9日	縄文中期初頭板状土偶の顔表現
1月10日	京都議定書を(英語で)読む
2月13日	・災害時要援護者のための防災デザイン ・人形浄瑠璃文楽(アンコール編)

く思った。

- ・「八戸地域における水産業の復旧・復興」八戸の水産業の将来が不安になった。水産加工業は元気があるような気がしていたが、別業種の八戸市民でも応援できることがないか探りたい。
- ・「大津波により海岸植生はどう変わったか?」今後先生の調査が復興への大きなカギになるのではと思った。また新しい調査報告を聞きたい。
- ・「日本経済を考える」環境への配慮が経済促進に繋がるなら、震災復興も経済促進のきっかけになるのではと思った。

## 5. 出張サテライト

より多くの方々に情報発信をするため、サテライト外で開催されるイベントに参加している。防災グッズの使用体験や防災マップの紹介をしたり、クイズ形式で防災・減災を学んで頂いたりした。また、町内会からの要望で出張講座も開催した。図 5.1 は、「青少年のための科学の祭



図 5.1 出張サテライト「青少年のための科学の祭典2014 八戸大会」の様子(2014年8月9日)

表 5 出張サテライト実施概要

①平成 26 年度災害用伝言ダイヤルキャンペーン		⑤はちのへほコテン	
開催日	平成 26 年 7 月 1 日	開催日	平成 27 年 5 月 31 日
主催者	公益財団法人日本公衆電話会 八戸支部	主催者	はちのへほコテン実行委員会
会場	八戸市 三春屋前	会場	十三日町～三日町
担当ブース	—	担当ブース	いつもの場所で、命をまもる
来場者数	40 名	来場者数	200 名超
②青少年のための科学の祭典 2014 八戸大会		⑥平成 27 年度災害用伝言ダイヤルキャンペーン	
開催日	平成 26 年 8 月 9 日, 10 日	開催日	平成 27 年 7 月 1 日
主催者	青少年のための科学の祭典 2014 八戸大会 実行委員会, 公益財団法人日本科学 技術振興財団・科学技術館, 八戸市, 八戸市教育委員会	主催者	公益財団法人日本公衆電話会八戸支部
会場	八戸市民センター	会場	八戸市 三春屋前
担当ブース	自分の身を守るには	担当ブース	-
来場者数	9 日 128 名, 10 日 98 名	来場者数	50 名
③吹上公民館出張サテライト		⑦第 4 回市民と一緒に考える国際防災フォーラム	
開催日	平成 26 年 8 月 26 日	開催日	平成 27 年 8 月 30 日
主催者	サテライト	主催者	八戸工業大学防災技術社会システム研 究センター
会場	八戸市吹上公民館	会場	八戸市 公民館ホール
テーマ	八戸に襲来が想定される津波について	担当ブース	—
参加者数	13 名 (吹上地区町内会員)	来場者数	180 名
④雪氷楽会 in 八戸～雪氷から防災を考える～		⑧はちのへほコテン	
開催日	平成 26 年 9 月 23 日	開催日	平成 27 年 10 月 25 日
主催者	公益社団法人 日本雪氷学会	主催者	はちのへほコテン実行委員会
会場	八戸ポータルミュージアムはっち	会場	十三日町～三日町
担当ブース	しんさいからたちあがる蕪島 (はちの へし)	担当ブース	いつもの場所で、命をまもる
来場者数	74 名	来場者数	200 名超

典 2014 八戸大会」で、子ども達と防災クイズや非常用品の体験使用をしている様子である。また、図 5.2 は、中心街の歩行者天国「はちのへほコテン」でモバイルソーラーサプライ、八戸市防災マップ、移動型緊急手術室ポスターパネルを展示し、災害用伝言ダイヤル PR ティッシュ・災害時連絡方法のてびき<sup>4)</sup>、HIT 復興支援講座のチラシを配布している様子である。表 5 に出張サテライトの開催一覧を示す。

参加者からは、「八戸市防災マップを初めて見た」、「ドクターカー V3 を八戸工業大学が開発したのは知らなかった」、「災害用伝言ダイヤルを知らなかったので、家族にも教えたい」などのご意見を頂き、多くの方への正確な情報



図 5.2 出張サテライト「はちのへほコテン」の様子 (2015 年 10 月 25 日)

伝達に工夫の要ることを痛感した。

## 6. 防災ウォーキングマップ

八戸市防災マップを基に、サテライトをスタート地点及びゴール地点にしたウォーキングルートマップを作成した(図6)。作成したマップは、毎月発行のHIT復興支援講座のチラシとともに配付し、受け取った方からAEDや公衆電話の設置場所についての問い合わせなどを頂いた。

作成の目的は、実際にルートを歩き、どのような所が津波による浸水の恐れが大きいのか、土砂災害の危険箇所はどのようになっているか、ルート上に避難経路としてふさわしくない箇所はないかなどの点や、発災後に必要となる可能性の高い公衆電話や避難場所の位置や状況を確認して頂くためである。

## 7. サテライトにおける情報発信の工夫

サテライト設置時から情報発信を積極的に行っているが、その主なものを以下に述べる。新聞やテレビなどのメディア情報は、正確な情報でも受け手の興味を喚起するものでなくては多くの方に伝えられないことを痛感しており、内容やタイミング等に細やかな工夫が必要である。

### (1) チラシ・ポスター

- ・中心街周辺施設への設置(継続中、19施設)
- ・郵送(継続中、送付先8件)

### (2) テレビ

- ・八戸テレビ:八戸工業大学映像研究部制作番組「HITハイパーニュース」サテライトコーナー(図7)(継続中)

### (3) 新聞

- ・デーリー東北今日のメモ欄(継続中)
- ・デーリー東北お買いもの情報VIANOVA欄

### (4) インターネット

- ・メールマガジン(継続中、発行先190件)
- ・アメーバブログ(継続中、記事数306件)

- ・太平洋沿岸エリア情報サイト「東北物語」(継続中)
- ・八戸地域情報チャンネル「はちのへ.jp」(継続中)
- ・VIANOVAホームページ内ショップニュース
- ・総合情報ポータルサイトオラシティ八戸
- ・地域情報ポータルサイトえんぶりスタイル

## 8. 他団体との連携

本章では、サテライトスタッフの活動の中でも、特に他団体との連携について述べる。

### 8.1 災害ボランティアコーディネーター

平成25年11月28日、佐々木が災害ボランティアコーディネーター養成研修を受講し、災害ボランティアコーディネーター連絡協議会に入会した。訓練や研修を継続しており、市内のボランティア団体の活動や市内の防災関連イベントの情報の収集に繋がっている。

### 8.2 防災士

平成26年10月4日～5日、佐々木が防災士研修講座を受講し、防災士資格取得試験を受け、10月24日に、防災士として認証を受けた。その後、特定非営利活動法人日本防災士会、特定非営利活動法人青森県防災士会(八戸支部)に入会し、訓練や研修を継続している。国内および県内で開催される防災訓練や防災教室などの情報収集に繋がっている。

また、平成28年1月15日には、青森県防災士会からの依頼で、本学学生を対象に、八戸広域消防本部にて災害対応訓練「イメージTEN」を行った。この訓練は本来自主防災組織向けのため、学生向けにアレンジして行った。その時の様子を図8に示す。緊急地震速報発令から時系列に、地域住民の安全確保のための話し合い、倒壊家屋からのけが人の救出、救護所でのトリアージ、避難所設営のルール設定などを訓練し、その模様はテレビ中継された。



図 6 防災ウォーキングマップ

### 8.3 日本公衆電話会

佐々木は、本法人の橋本精二副理事長（公益財団法人日本公衆電話会青森県分会八戸地区分会長）の推薦を受け、平成27年度から公益財団法人日本公衆電話会岩手県・青森県支部の理事として、主に災害用伝言ダイヤルの周知活動に取り組んでいる。同会から提供を受けた災害用伝言ダイヤルPRティッシュ（750セット）・災害時連絡方法のてびき<sup>4)</sup>（600冊）はサテライトや出張サテライトで市民の方々に配付した。

## 9. おわりに

サテライトでは、不特定多数への情報発信とともに、対象を特定した情報発信を行い、活動を多くの方に認知して頂いた。HIT復興支援講座参加者アンケートでは、講座を知ったきっかけは「新聞」が一番多い。2015年度から開始したメールマガジンの発行では、「今、大学でどんな取り組みをしているのか？地域の皆様へどのように正確な情報を伝え役立ててもらえるかを模索しながらの大変貴重且つ地域社会貢献に大事な役割だ。今後もタイムリーな情報発信をお願いしたい。」との声を頂いている。チラシの郵送では、「インターネットを使用しないので、

情報を得にくい。講座に参加してもっと学びたいので、今後も郵送を続けてほしい」との声が複数頂いている。また、サテライトを介したセンターへの問い合わせなども多く、サテライトは地域住民の方と大学を繋ぐ役割を果たすことができた。

## 参考文献

- 1) 佐々木良子，武部かおり，佐藤学，大野和弘，齊藤克治，関秀廣，熊谷浩二：八戸工業大学の地域連携活動の事例報告—中心市街地にある「サテライト」の活動を中心に—，八戸工業大学紀要第33巻，pp.103-113，2014.
- 2) 佐々木良子，熊谷浩二：防災技術社会システム研究センターサテライトにおける地域住民の声に応えた活動事例，八戸工業大学紀要第34巻，pp.85-92，2015.
- 3) 東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会：東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会報告書（DVD），2013年9月
- 4) 公益財団法人日本公衆電話会：災害時連絡方法のてびき 大規模災害時の安否確認，2015.



図7 八戸テレビ「HIT ハイパーニュース」（平成27年12月放送回）



図8 本学学生が参加した青森県防災士会主催の「イメージTEN」の様子（平成27年1月15日）

## 要 旨

2012年3月、創造的復興のための技術開発・支援と地域連携に取り組む八戸工業大学は、地域連携推進のため、八戸市中心市街地に八戸工業大学防災技術社会システム研究センターサテライトを設立した。本報では、今後も地域と大学との連携を継続していくための記録として、サテライトでの情報発信の工夫および地域連携活動を報告する。2015年12月末現在のサテライト来場者数は9,363名で、多くの方に防災、地域復興についての情報を提供している。

**キーワード:** サテライト, 防災教育, 地域連携, 情報発信